

令和2年度埼玉県学力・学習状況調査について

1 調査の概要

(1) 調査目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

(2) 調査対象 小学校4年生～中学校3年生

(3) 調査内容

①教科に関する調査

小学校4年生～小学校6年生：国語、算数

中学校1年生：国語、数学

中学校2年生～中学校3年生：国語、数学、英語

②質問紙調査 学習に対する意識、生活の様子、規律ある態度等

(4) 実施時期 令和2年6月1日（月）～7月16日（木）までの7週間内で、各学校が任意で定めた1日

(5) 調査の特徴

「児童生徒一人一人の学力がどれだけ付いているのか」という視点で、一年間の学習の積み重ねが「学力の伸び」として見えるようにする



自分の学力の伸びや成長を実感することで、学ぶ意欲と自信につながる

(6) 「学力の伸び」について

学力の伸び＝昨年度と比較してより高度な問題に解答できるようになった状態

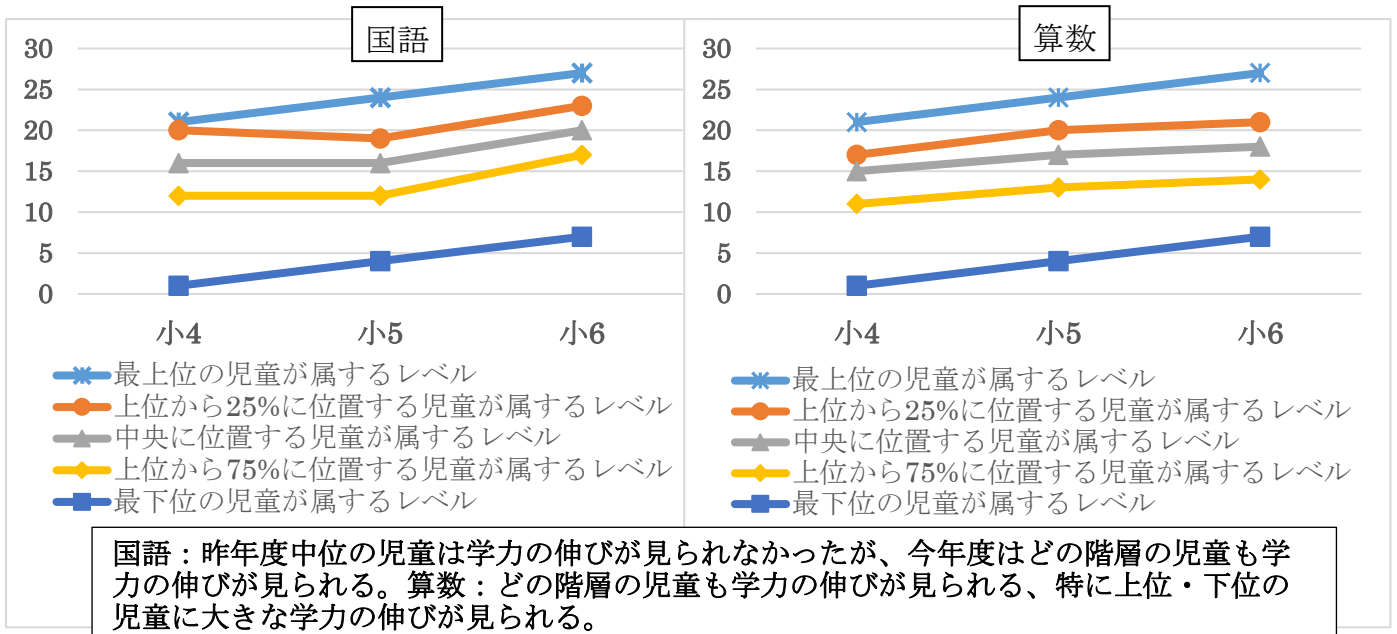
	小4	小5	小6	中1	中2	中3
レベル12						
レベル11						
レベル10						
レベル9						
レベル8						
レベル7						
レベル6						
レベル5						
レベル4						
レベル3						
レベル2						
レベル1						

児童生徒の個人結果票に「学力のレベル」をバーの位置で表示。前学年と今回のバーの位置を比べると学力の差＝「学力の伸び」がわかる。

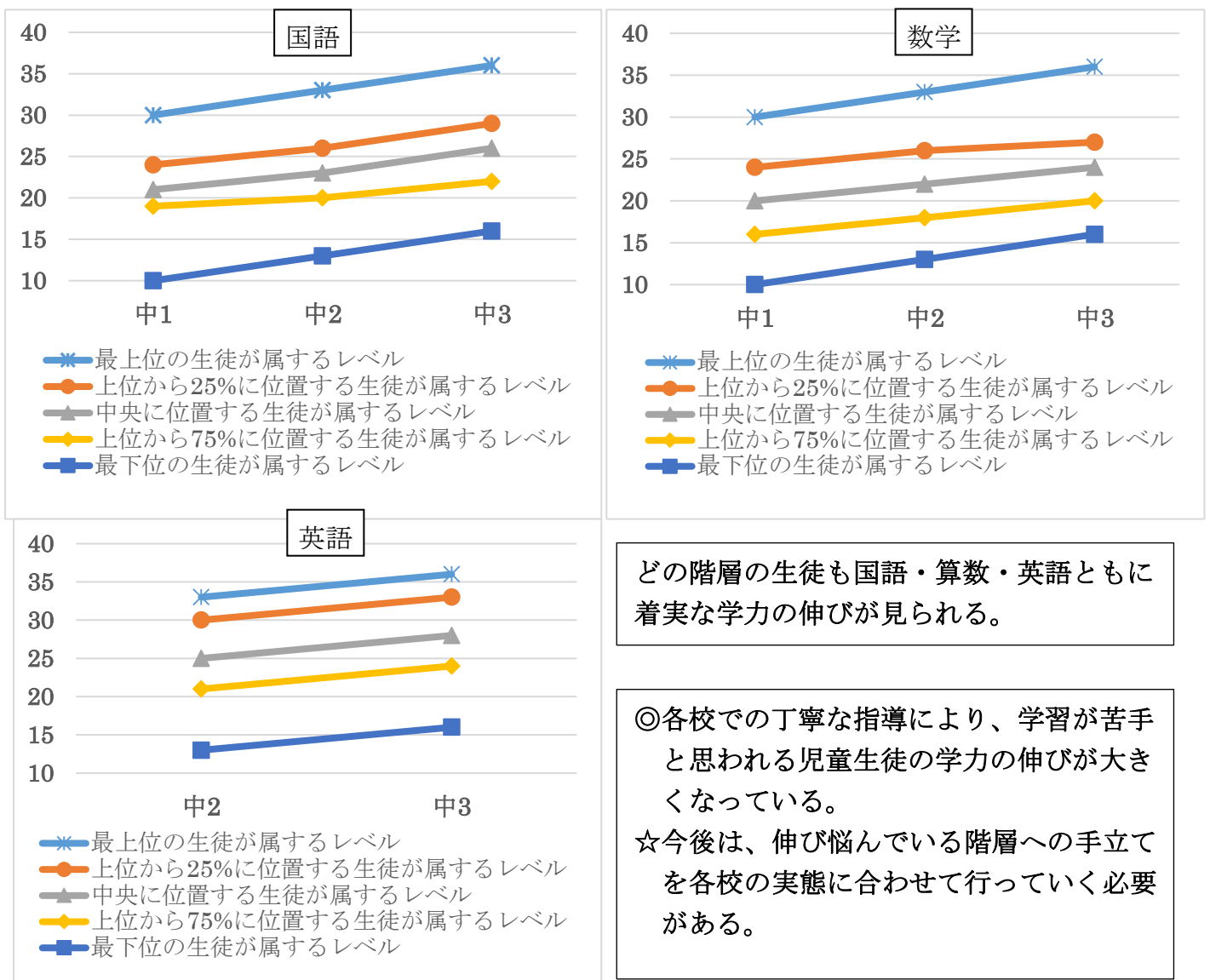
左記の中学1年生の場合、小学6年から中学1年の1年間で「学力の伸び」が3段階上がったことになる。

【市内小・中学校の「学力の伸び」について】

(1) 小学校6年生



(2) 中学校3年生



【調査結果の活用について】

- (1) 調査結果から児童生徒がどのような伸びや変容したか分析する。
- (2) 前年度に実施した取組や指導の成果を、結果の分析をもとに具体的に把握する。
- (3) 大きな「学力の伸び」が見られた学級について、その指導方法や取組を校内で共有し、授業改善につなげる。
- (4) 学校指導訪問の指導案に授業改善策を明記し、指導主事が教員を直接指導する。
(※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

【これまでの分析でわかった、学力を伸ばす取組】

<授業展開> 主体的・対話的で深い学びを実践している授業

◆自力解決の時間確保

- ・ヒントの出し方の工夫
→自分の考えを大切にする



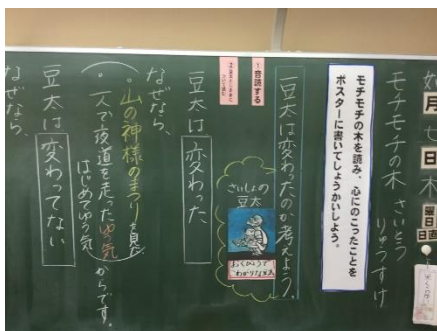
◆話し合い活動の効果的な実施

- 自分の考えを基に目的を持って話し合い、理解を深める



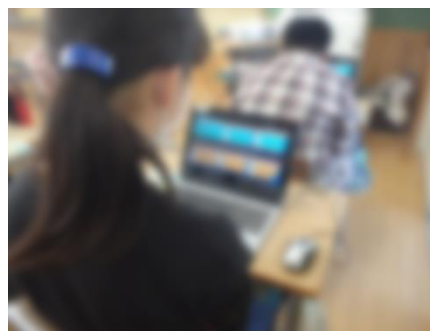
◆めあての提示と振り返りの実施

- 学習課題を把握し、振り返ることで理解を深める



◆指導法の工夫・改善と教材研究

- 授業に興味・関心をもつことで学習意欲を高める



<学級経営> 非認知能力* を伸ばす学級経営

- ・規律ある態度の育成を図る（あいさつ、返事、無言清掃、提出物など）
- ・意図的に子供たちとコミュニケーションを図る
時間：休み時間、給食中、放課後等
方法：子供たちとのやりとり帳、チャンス相談等
- ・子供のよいところを見つけ、具体的にほめる等、子供たちへの声掛けの充実
- ・学級活動や道徳の授業の充実

※非認知能力 … 自己肯定感、自制心、やり抜く力、社会適応力等、認知能力（IQ等）以外の能力